

平成29年度同窓会総会 総会報告

東京支部 幹事 土屋 哲

2017年度東北大学電気・通信・電子・情報 同窓会総会は、東京支部との共催で、9月8日17時より、東京神田の学士会館にて開催されました。103名のご参加をいただき、大学の活動報告（青葉山、および、通研）、2016年度活動の報告、今後の活動予定が議論され、その後、最新技術動向の講演が行われ、最後は懇親会で会員相互の親交を深めることができました。



議事に先立ち、はじめに小野寺正会長（電昭45、KDDI（株））より御挨拶をいただきました。「ICT業界の変化のスピードは非常に激しい。今回の特別講演のテーマはAI（人工知能）であるが、AIは今後いろいろな形で展開があると思っており、同窓会会員のご協力をいただきたい。」と期待を述べられました。続いて、岸本光弘東京支部長（情昭56、富士通（株））より、「最近の社会動向であるSociety5.0は、従来の延長ではなく、企業や業界の垣根を越えて新しい価値を産むことである。このような業界を越えた価値を産むには、人間のネットワークが大事であり、こうした同窓会総会、懇親会の場を新しいネットワーク作りに活用いただきたい」との挨拶がありました。

その後、大学側より近況報告が2件ありました。はじめに電気・情報系運営委員長である川又政征教授から電気・情報系の近況報告が行われました。平成29年3月の卒業生の数は、学部生である電気・情報系6コース209名、応用物理学コース37名、そして、大学院修士課程227名、博士課程26名で、博士課程の学生が少ない状況にある。平成27年より、新入生を対象とした合宿オリエンテーションをはじめ、学部学生に向けた手厚い支援を行っている。最近の主要な受賞としては、7月に虫明名誉教授がIEEE

Milestoneを授与された。外部機関による大学の評価では、朝日新聞による高校からの評価ランキングで、2015年、2016年は1位で、2017年はいったん2位に下がったが、2018年は見事1位に返り咲き、THE世界大学ランキングでは、東京大学に続く2位に選出された。周辺環境としては、青葉山に新キャンパスが開設され、地下鉄青葉山駅から0分でアクセス可能になった。東日本大震災に対する「創造的復興の取り組み」として復興基金を集めており、現在4億円以上が集まっており、寄付者にお礼申し上げたい。皆様からのご寄付に基づき、電気系新1号館の近くに「復興祈念教育未来館」を平成30年に着工予定で、引き続きご支援を賜りたい。次に、電気通信研究所大野所長より、通研の近況について報告がありました。現在、教員数は65名（内外国人7名）、学生242名（内外国人35名）であり、外国との共同研究の割合も高く、材料化学について高いレベルを保っている。人工知能のハードウェア、省エネルギーエレクトロニクスの研究も行っている。最近、指定国立大学の指定を受けたが、7大学が応募した結果、東京大、京都大、東北大が選出された。

次いで本部議事に入り、伊藤庶務幹事より本部事業報告が行われ、仙台と東京で交互に開催されている産官学連携のフォーラムの開催状況などが報告され、誤記について訂正された後、承認されました。続いて、枝松会計幹事より本部会計報告が行われ、原案通り承認されました。また、2018年度本部役員選出が行われ、総務幹事は、藤掛教授から陳強教授へ、会計幹事は枝松教授から塩入論教授に交代することが承認されました。

引き続き東京支部議事に入り、岸本支部長より東京支部事業報告と支部会計報告が行われ、若手交流会への参加状況などが報告された後、原案通り承認されました。また、2017年度の東京支部事業計画、支部会計予算についての説明があり、若干の誤記の修正の後、原案通り承認されました。また今回、東京支部会則について一部改定の提案があり、副幹事、幹事補佐、副幹事補佐に関する項目を追加することが承認されました。引き続き2018年度東京支部役員選出に移り、2018年度支部長に三菱電機（株）の渋谷昭宏様（通昭58）、副支部長にソニー（株）の佐藤裕之様（通昭57）をはじめとする新役員案が原案通り承認されました。

議事終了後、富士通研究所特任研究員の丸山文宏様を講師に迎え、「日本の人工知能の現状と今後の展望」

の演題で特別講演が行われました。講演では、AIの第1次から第3次ブームまでの歴史、機械学習の基本から最近のDeep Learningの成果まで、そして、日本の人工知能学会が急速に会員数を増やしており、特に企業からの参加が急増していること、また、2017年に人工知能学会倫理委員会で倫理方針を作成したこと、最後に、AIがどのような作業に適用されるかのビジョンが説明され、基本的な要素から最近の応用、そして将来展望まで幅広い解説と今後の可能性を示唆いただきました。

特別講演の終了後、三菱電機（株）中山正敏（子博平3）副幹事の司会で懇親会が開催されました。開会に先立ち、ご逝去された恩師、同窓生の方々に対する黙祷が行われ、その後、叙勲者の紹介があり、続いて、渋谷昭宏 東京支部副支部長の開会の挨拶の後、根元義章 副会長の発声で乾杯を行いました。約1時間半の

歓談の後、若手同窓生からの近況報告、そして学生歌「青葉もゆるこのみちのく」を合唱し、佐藤裕之 次期東京支部副支部長による閉会挨拶をいただき、盛況のうちに懇親会を終えました。

最近の産業動向を見るに、モノからコトへ消費中心が移動し、ネットを通じたサービスで価値が提供されるようになり、製造業もモノの生産からモノを使ったサービス業へと大きく業態が変わろうとしています。このような時代には、従来の枠組みを越えた、企業にまたがる新しい形の「協業」「共創」が求められるため、企業を越えた連携の橋渡しとなる大学の同窓会は今後ますます重要になってくると思われます。前年度から若年層の参加費を下げ、総会の参加者は大幅に増えており、今後もこれらの施策を通じて活発な同窓会活動につなげていきたいと思えます。

